

大地申第1号
2017年7月14日

東日本旅客鉄道株式会社大宮支社
支社長 中村知久 殿

東日本旅客鉄道労働組合
大宮地方本部
執行委員長 森田勝美

「JR東労組大宮地本第18回定期大会」の発言に基づく申し入れ

大宮地本は、7月2日～3日「第18回定期大会」を開催し、JR東労組結成30年の節目を迎え、国鉄改革の真実を語り継ぎ30年検証運動とJR改革を推し進め、「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある職場を将来に亘りつくり出すことを確認してきました。

大会では、安全を脅かし命をも奪いかねない事象が発言され、改めて安全第一の職場を再確立することが重要な課題である事が明らかになりました。職場からは、一部発生した事象を矮小化し公表されるため、事象の重大性に気づけず、問題の本質まで深める議論が出来ていないとの声や、現車訓練の機会が少なく本来業務に必要な知識が身につけていない現実が明らかになっています。また、MyProject や各種委員会活動、試験や研修等への参加に重さが置かれ「評価のあり方」を危惧する声が出されています。従って、事故・事象の発生に対して「真実を語れる環境」をつくり出し、個人の責任へ転嫁するのではなく原因を究明し、現実に応じた対策が実施されなければなりません。併せて「安全を最優先に判断できる人材育成」を目指し、本来業務に集中し必要な技術・技能習得できる環境を整備する事が、事故を未然に防ぐ事にも繋がると考えます。

施策については、「施策実施に関する確認メモ」違反を許さず二度と発生させない事を求める声や、実施以降検証を進める中「施策の目的が達成できていない」「施策のメリットが実感できていない」等の声が出されています。

また、「TRAIN SUITE 四季島」は華々しく運行開始しましたが、営業職場からは他の旅客へのサービスの低下を不安視する声や、担当乗務員区においては乗務員養成等に対する要望、人間性をも否定する声が浴びせられている現実に怒りに留まらず会社に対して不信感すら覚え、モチベーションが低下している事を重く受け止めなくてはなりません。

JR発足30年を迎え、今一度職場現実を正しく把握し、職場の声に真摯に向き合い、問題解決に向けて労使が精力的に取り組まなければなりません。改めて、労使双方が健全な労使関係を構築するとの見地に立ち、安全第一・人間性が尊重される職場の実現を目指し、下記の通り申し入れを行いますので誠意ある回答を要請します。

1. 発生している問題を解消し「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある職場構築の実現に向けて、協約及び労使の確認事項を遵守し、健全でより強靱な労使関係を確立すること。また、信頼関係に基づいた自由闊達な議論を誠意もって行い、様々な情報の共有化を図り、現場第一主義に立脚した職場を構築すること。
2. 安全第一の職場の構築に向けて、本来業務に集中できる環境と安全を最優先に判断できる人材の育成を強化すること。また、下記の事象について事実関係を明らかにし、個人への責任追及ではなく、原因を究明し現場の意見を基に事実即した対策を講じること。
 - ① 2017年6月16日、小山車両センター構内において発生した移動禁止表示掲出中に車両が起動した事象について。
 - ② 2017年6月16日、1086M浦和駅旅客ドア挟まりの事象について。
 - ③ 2017年6月2日、黒磯駅構内で列車床下から発煙した事象について。
3. 乗務員添乗の目的を明らかにすること。また、安全を脅かす添乗中の試験・転勤等に関する懲罰は行わず、乗務に集中できる環境を確保すること。
4. あらゆるハラスメントの無い安心して働ける職場を構築すること。また、社員への暴力撲滅を目指し対策を強化すると共に、被害にあった当事者が毅然と対応できる体制とすること。
5. 「TRAIN SUITE 四季島」運行開始前後において発生している課題を明らかにすること。また、宇都宮運転所において、担当乗務員を拡大し、全指導員への教育並びに現車訓練の充実化を図る等、安全・安定輸送を確保できる体制を構築すること。

以上